

第2期魚沼地域定住自立圏共生ビジョン(案) パブリックコメント(意見募集)の結果

問 企画政策課

☎ 773・6672

第2期魚沼地域定住自立圏共生ビジョン(案)について、6月18日(金)～7月19日(月)にパブリックコメントを行った結果、3件(1人)の意見がありました。提出された意見の概要とそれに対する2市1町の考え方を公表します。計画案は共生ビジョン懇談会に諮り、答申を踏まえて10月に策定を完了しました。

意見の概要	2市1町の考え方(対応)
<p>スポーツ施設の相互利用はすばらしいと思う。</p> <p>しかしなぜ「自転車を活用したスポーツ施設相互利用」を強調しているのか、わからない。既存の施設を各市町民が相互利用できるようにすればいいのではないか。</p> <p>夏季には猛暑日になる魚沼地域で「自転車を活用したスポーツ施設相互利用」を強調し、予算を付けて実施するのは現実的なのか疑問に思う。</p> <p>(第4章 「スポーツ施設の相互利用事業」)</p>	<p>スポーツ施設の相互利用については、利用料金の整合性と市民ニーズの底上げが課題となっています。</p> <p>各市町の利用料金の設定は、採算性や公益性、施設の規模や数、町村合併時の事情など、さまざまな要因を総合的に判断して決定しています。そのため、相互利用で利用料金の見直しを行うことは容易ではないと判断しました。</p> <p>スポーツ施設の相互利用は、市民ニーズが少ないというアンケートの結果を踏まえて、今後の方針を協議したところ、まずは市民ニーズの底上げが必要との考えに至りました。</p> <p>その具体的な施策として、2市1町で始まっている自転車を活用した地域活性化事業との連携を始めることとしました。道路管理者や自転車に関連する市民団体などで構成する「湯沢町・南魚沼市・魚沼市連携自転車活用推進協議会」が設立され、魚沼地域の地域資源を自転車で結ぶモデルルートの整備を進めています。</p> <p>自転車を活用した取り組みはひとつの方法であり、それ以外の方法も検討して、総合的、戦略的に市民ニーズの底上げを図っていきます。</p>
<p>新ごみ処理施設は、令和3年3月に方針変更し、南魚沼市と湯沢町で1施設、魚沼市で1施設をそれぞれで整備・運営することになった。</p> <p>このことについて、どのような経緯で見直しが決まったのか記載がない。トン数当たりの処理費がかさむ中で複数施設にする意味はあるのか。</p> <p>また現在、大和地域は魚沼市のごみ処理施設を使用しているが、将来的には南魚沼市と湯沢町の新ごみ処理施設に移行するという認識でよいか。</p> <p>(第4章 「廃棄物処理等広域連携事業」)</p>	<p>新ごみ処理施設建設方針の変更は、2市1町のウェブサイトや広報紙でお知らせしています。</p> <p>方針変更の経緯</p> <p>2市1町が共同でごみ処理施設を整備する基本合意から、これまで候補地選定が進まない中、社会情勢の変化もあり、事業に対する考え方に変化が生じました。2市1町の区域の広さ、雪の影響を大きく受ける冬季などの自然条件を再検討し、次の3点の理由も考慮した結果、方針を変更することとしました。</p> <p>①近年頻発する局地的な自然災害やごみ処理施設の故障などによる緊急停止に対応するため、緊急時のリスク分散を図る必要性が高まっていること</p> <p>②急速に高まる脱炭素社会の構築に向けて、収集車両のごみ運搬に伴う化石燃料の消費を抑える必要性を考慮したこと</p> <p>③全体の約6割のごみが直接搬入されている現状から、市民や事業者の距離的な負担の増加を防ぐこと</p> <p>また、大和地域のごみは、新施設の完成を機に南魚沼市と湯沢町の施設で処理を行います。</p>
<p>ハートマッチにいがたの臨時サポート窓口の開設は進めてほしい。</p> <p>「将来的には圏域外の市町村とも連携を目指す」とあるが、なぜ最初から圏域外の市町村との連携をめざさないのか。</p> <p>(第4章「婚活支援事業」)</p>	<p>ハートマッチにいがたの臨時サポートデスクは例年好評をいただいております。今後も開設の要望を継続し、情報発信などに力を入れていきます。</p> <p>圏域外からの定住や交流人口の増加を図るために、圏域外市町村との連携も必要と考えていますが、まずは魚沼地域定住自立圏の事業として2市1町の連携を密にし、事業が軌道に乗ってから連携市町村の拡大を検討します。</p>